

自分自身が使い手の立場に立つ！



～はさみの製造～

はせがわはもの
(長谷川刃物)

おおつか まさゆき
大塚 雅之さん

製品開発の流れは大まかには、企画、構想→市場調査→デザイン、設計→試作→量産→販売というように行っていきます。

売れる製品を作るには、もちろん、誰がその製品を必要としているかが重要になってきます。お客さんの年代、性別、その対象の大きさなど、いろいろ調査しなくてははいけません。また、製品を必要としている対象を実際に見て、話して、感じることです。

ある特別支援学校を訪問した際、今あるはさみを使えない子どもたちを見て、この子どもたちにも使えるようなはさみを作りたいと、製品化したものもあります。

特に、ユニバーサルデザインなど、誰にでも役立つ製品を作るためには、自分自身が使い手の立場に立って考えることが大切だと思います。

